

にじのまつばら

虹の松原

- 所在地／唐津市鏡虹ノ松原
- 規模／幅0.4～0.7km、長さ4.5km、面積214ha、樹齢400年
- 指定／玄海国定公園、特別名勝、防風保安林、潮害防備保安林、保健保安林
- 問合せ／唐津市農地林務課 電話 0955-72-9210



COLUMN

85種類もの野鳥や、ハマヒルガオの群生が魅力。運がよければ希少なキノコのショウロを観察できます。近くの鏡山公園や魚見台公園は、虹の松原の全景を一望できる絶好のビューポイントです。

ACCESS

●電車やバスの場合
JR 筑肥線虹ノ松原駅下車すぐ

●車の場合
長崎自動車道「多久」I.C. より国道203号線経由40分
駐車場有り



立地環境

玄界灘に面しており、ゆっくりと弧を描いた松林が弓形状に広がります。西端に川を隔てて唐津城があり、南には鏡山がせまります。

松原の今昔物語

太閤伝説の残る松原～爽涼な空気とすがすがしい松の香りに包まれて

文禄4(1595)年、唐津藩主・寺沢志摩守が、防風林を造成するため農民に松苗木を植えさせたのがはじまりといわれます。盗伐を禁止するため、藩主は「松林の中には予が愛する松が七本ある。その松を切った者はその場で打ち首にする」というおふれを出したという「寺沢志摩守の七本松」の伝説があります。

松林は幼木から400年生以上の老松までが立生するクロマツ林で、「太閤にらみの松」、「根上がりの松」などの名松もあり、さらに「松原の七不思議」を秘めていることでも有名です。

また、この松林は1771年の松原一揆の舞台になっている一方、戦前までは国際高級避暑地として、「レインボウパインツリーズ」の愛称で広く世界に紹介されるなどの歴史もあります。広大な砂丘にあって、各種保安林としての機能も十分に果たしている、大切な松林です。

松原の活動組織「KANNE」

●誕生の経緯

私たちNPO法人唐津環境防災推進機構 KANNE は、「人と自然の共生」をテーマに2006年に活動を開始しました。虹の松原はそのモデルとなる場所です。

虹の松原は大半が国有林であり、佐賀森林管理署は2007年9月に将来像と整備方針を示す「基本計画」を策定しました。これを受け、佐賀県・唐津市・地元住民等による虹の松原保護対策協議会は、2008年3月に「実行計画」を策定。さらに同年9月、九州森林管理局・佐賀県・唐津市が連携・協働を確認する覚書を締結しました。

その後、協議会(事務局：唐津市)は佐賀森林管理署とレクリエーションの森協定を結び、実行計画に基づく活動を推進しています。再生・保全には国や自治体だけでなく、地域住民、企業の協働が不可欠です。そのため、協議会から委託を受けたKANNEが参加者支援を担う体制が整えられました。

●アダプト制度について

虹の松原の再生・保全活動への参加方法は、当日自由に参加できる「イベント参加」と、一定区画を受け持ち好きな時に活動ができる「アダプト参加」の2つがあります。年間7,000人以上が参加をしていますが、保全面積は全体の約25%にとどまっています。

アダプト参加は、現在239団体(約93%が唐津市内)が登録しています。学校や企業など多様な主体が参加していますが、近年は高齢化や働き方改革により、参加者数や活動継続率の低下が課題となっています。また、駐車場やトイレのある場所や、PR効果が期待できる場所に希望が集中する傾向も見られます。そのような状況であっても、ゆめさが大学卒業生等による新たな参加も見られます。

また、唐津南高校虹ノ松原研究班は、2008年に林野庁と「遊々の森」協定を結び、保全活動に加え、普及啓発や地域資源を活用した商品開発にも取り組み、次世代の担い手として重要な役割を果たしています。



松葉かきの様子

●これからの展開

虹の松原の再生・保全活動を持続的に発展させるためには、次世代への継承と資源の循環的活用が重要です。まず、担い手育成として環境教育の充実を力を入れています。園児・小学生・中学生まで発達段階に応じた体験型プログラムを整備し、松原の価値や保全の意義を学ぶ機会を広げ、主体的に関わる人材を育成していきます。

また、活動で集められた松葉や枯れ枝などを堆肥や燃料として利用を進めることで、地域内で資源が循環する仕組みづくりを目指します。

さらに、多様な主体が連携・協働し、単なる維持管理を超えて松原の多面的な価値を最大限に活かし、環境・社会・経済の課題を同時に解決し、持続可能で活力ある地域づくりに貢献していきます。

加えて、全国で松原の保全活動に取り組む皆様とも連携し、それぞれの地域に根ざした持続可能な取り組みをともに広げていきたいと考えています。

文：NPO法人唐津環境防災推進機構 KANNE
理事長 藤田和歌子
KANNE ホームページ <https://npokanne.com/>



全国の皆様に松原を身近なものと感じ、気軽に散策していただくことを意図して、2007年に冊子「身近な松原散策ガイド」を作成しました。現在、ホームページ「身近な松原散策ガイド」において、新たな松原を追加して47都道府県125か所の松原を紹介しています。松原に足を運び、白砂青松をお楽しみください。

